

凍結融解単一胚盤胞移植におけるレーザー孵化補助術の有効性

稲場美乃¹・大谷飛鳥¹・堀内理菜¹・杉原研吾¹

森梨沙¹・藤岡聡子¹・井田守¹・春木篤¹・福田愛作¹・森本義晴²

¹IVF 大阪クリニック

²IVF なんばクリニック

目的

多胎防止の為、単一胚盤胞移植が増加している。その一方で、良好胚盤胞を移植しても妊娠に至らない症例も少なくない。当院では、そのような反復不成功胚盤胞移植例に対しレーザー孵化補助 (Laser assisted hatching : LAH) を施行している。今回、凍結融解胚盤胞移植症例を用いて、胚盤胞移植での LAH の有効性について検討した。

対象と方法

2010年1月から2011年12月までに単一凍結胚盤胞移植を実施した症例のうち、LAHを施行した86周期70症例 (AH+群) と LAHを施行しなかった685周期321症例 (AH-群) を後方視的に検討した。両軍間の妊娠率及び流産率を比較検討すると同時に、両群において胚移植時に胚盤胞収縮が認められた場合の妊娠率及び流産率に及ぼす影響についても検討した。

結果

妊娠率、流産率は AH+群で 39.5% (34/86)、35.3% (12/34)、AH-群で 49.2% (337/685)、21.4% (72/337)、であり、ともに両軍間に差は認めなかった。胚移植時の胚盤胞収縮は AH+群で 16.3% (14/86) に AH-群で 9.9% (68/685) に認められ、AH+群で収縮率が高い傾向にあった。また、収縮を認めた症例の妊娠率、流産率は、AH+群で 57.1% (8/14)、12.5% (1/8)、AH-群で 32.4% (22/68)、18.2% (4/22)、であり、AH+群で妊娠率が高い傾向であった。

考察

今回の検討では LAH を施行することによる妊娠率の改善は認められなかった。しかしながら、LAH を施行後に胚移植時に胚盤胞収縮を認めた症例では、**LAH を実施した症例では施行しなかった症例**と比較してやや高い妊娠率が得られた。今後はさらに症例数を増やし、胚盤胞収縮と LAH の関連性について検討していきたい。

今回の検討では LAH を施行することによる妊娠率の改善は認められなかった。しかしながら、LAH を施行後に胚移植時に胚盤胞収縮を認めた症例では、**LAH を施行しなかった症例**と比較してやや高い妊娠率が得られた。

今後はさらに症例数を増やし、胚盤胞収縮と LAH の関連性について検討していきたい。